

組織的な不登校対応について

不登校生徒の状況

対象生徒は中学校 1 年生の途中で転入したが、人間関係に不安を抱え、中学校 2 年生の途中まで全く登校できずにいた。当該生徒は、学習意欲が高いため、どのような状況でも学ぶことができる仕組みを構築する必要があった。

具体的な取組

○魅力ある学校づくりの促進

魅力ある授業を一層推進するために、教員相互の授業観察や授業の導入の仕方についての校内研修を行い、指導力の向上を図った。さらに、自己肯定感を高めるような「命の授業」を企画し、絵本作家による講演会を開催した。

○校内別室の設置

当該生徒が安心して過ごせる校内別室を目指し、コロナ禍で更衣室として使っていた教室を空け、校内別室として整備した。校内別室にも教室と同じようにプロジェクターとスクリーンを整備し、活動の幅を広げた。

○いつでも登校・学習できる仕組み作り

不登校生徒が別室に登校できたときは、在校していることを教員全員が把握でき、シフト表に沿って支援を実施した。また、生徒の特性や状況に合わせて、生徒をせかさずに待つことを大切にしながら対応した。

○欠席者への対応に係る行内体制

欠席者にはその日のうちに必ず電話連絡を行い、欠席が 3 日連続する前に対応している。欠席生徒が電話以外にも相談しやすいように、一人 1 台端末等のデジタル機器を活用した。SC、SSW、教育支援センター支援員などの外部専門家とオンライン相談や家庭訪問なども行った。

成果

取組を始めてから当該生徒は、ほぼ毎日登校している。学校内外の機関等による相談指導を受けていない生徒は 0 人になった。



課題

遅れていた学習を取り戻す支援方法と、規則正しい生活を送るための体力を取り戻す支援方法の策定。